

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

<b>事業名</b> 北海道横断自動車道 網走線 足寄～北見	<b>事業区分</b>	高速自動車国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北海道開発局	
<b>起終点</b> 自: 北海道足寄郡足寄町郊南 至: 北海道北見市北上	<b>延長</b>	79.0km			
<b>事業概要</b> 北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、本別町等を経由して、根室市及び網走市に至る高規格道路である。 足寄～北見は、十勝圏とオホーツク圏の連携機能の強化を図り、災害に強い道路ネットワークの構築、安全性や輸送効率の高い物流ネットワーク形成による地域産業の活性化、観光拠点への速達性向上による観光振興等を目的とした延長79.0kmの事業である。					
H15年度事業化 (新直轄方式)	—	H17年度用地補償着手	H18年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	約1,210億円	<b>事業進捗率</b> (令和7年3月末時点)	約77%	<b>供用済延長</b>	28.0km
<b>計画交通量</b>	3,500～7,300台/日				
<b>費用対効果分析</b>	<b>B/C</b> (事業全体)	<b>EIRR</b> (事業全体)	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 1,589/5,539億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 3,384/6,815億円	<b>基準年</b>
	1.2(0.9)	5.0%(3.5%)	(事業費: 1,410/4,899億円) (維持管理費: 180/560億円) (更新費: -/80億円)	(走行時間短縮便益: 2,895/5,705億円) (走行経費減少便益: 391/889億円) (交通事故減少便益: 99/221億円)	
	1.7(1.4) [2%]				
	2.1(1.7) [1%]				
	<b>(残事業)</b>	<b>(残事業)</b>	<b>感度分析</b>		
2.1(3.1)	9.5%(15.1%)	(事業全体)			
3.1(4.1) [2%]		交通量	B/C=1.1～1.4(±10%)	交通量	B/C=1.8～2.4(±10%)
3.8(4.8) [1%]		事業費	B/C=1.2～1.3(±10%)	事業費	B/C=2.0～2.3(±10%)
		事業期間	B/C=1.2～1.3(±20%)	事業期間	B/C=2.1～2.2(±20%)
<b>事業の効果等</b>					
<b>事業の必要性及び効果</b>					
① 農水産品の流通利便性向上 ・物流ルート <sup>①</sup> の速達性・安全性が向上することで、農水産品の流通利便性向上が期待される。					
② 救急搬送の速達性・安定性向上 ・高次医療施設への搬送時間の短縮や安定走行による患者負担軽減など、救急搬送の速達性・安定性向上が期待される。					
③ 災害時の緊急輸送ルートの強化 ・洪水浸水想定区域や地吹雪発生箇所を回避するルートが確保され、災害時の緊急輸送ルートの強化が期待される。					
④ 冬期都市間バス運行の利便性向上 ・日常生活の移動に加え、流氷観光など観光需要があるオホーツクと道央間の代替機能が強化される。					
⑤ 広域周遊観光の活性化 ・オホーツク圏の主要観光地への速達性が向上することで、広域周遊観光の活性化が期待される。					

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等:

帯広市、本別町など1市10町の首長等で構成される「北海道横断自動車道十勝地区早期建設促進期成会」等から、早期整備の要望を受けている。

知事の意見:

「北海道横断自動車道 網走線 足寄～北見」事業を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。

当該事業は、高規格道路網の構築によるオホーツク圏と道央・十勝・釧路圏の連絡強化を図り、災害に強い道路ネットワークの構築、安全性や輸送効率の高い物流ネットワーク形成による地域産業の活性化、観光拠点への速達性向上による観光振興等の支援に寄与することから、早期供用を図るようお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成15年 6月 北海道横断自動車道 池田IC～足寄IC開通
- ・平成18年 3月 北見市、端野町、留辺蘂町、常呂町が「北見市」となる  
女満別町、東藻琴町が「大空町」となる
- ・平成19年10月 北海道横断自動車道 トナムIC～十勝清水IC開通
- ・平成21年10月 北海道横断自動車道 占冠IC～トナムIC開通
- ・平成23年10月 北海道横断自動車道 夕張IC～占冠IC開通(道央圏と道東圏が直結)
- ・平成25年 3月 北海道横断自動車道 北見西IC～北見東IC開通
- ・平成27年 6月 道東地域が広域観光周遊ルート「アジアの宝悠久の自然美への道ひがし北・海・道」に認定
- ・平成27年11月 北海道横断自動車道 訓子府IC～北見西IC開通
- ・平成29年10月 北海道横断自動車道 陸別小利別～訓子府IC開通
- ・平成31年 3月 北海道横断自動車道 トナムIC～十勝清水IC間 付加車線設置(約9.5km)事業許可
- ・令和 2年 1月 北海道内7空港民間運営開始
- ・令和 2年 3月 北海道横断自動車道 占冠IC～トナムIC間 4車線化事業化
- ・令和 3年 3月 北海道横断自動車道 トナムIC～十勝清水IC間 4車線化事業化
- ・令和 6年 3月 北海道横断自動車道 追分町IC～夕張IC間 4車線化事業化
- ・令和 6年12月 北海道横断自動車道 阿寒IC～釧路西IC開通
- ・令和 7年 3月 国道238号紋別防雪全線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成18年度に工事着手して、用地進捗率約73%、事業進捗率約77%となっている。

(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

不良土対策の進捗を図り、引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

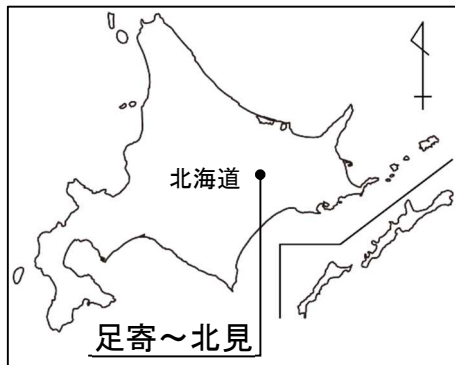
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



凡例	
	開通区間
	再評価区間
	開通区間



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。  
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)  
 ※B/Cの値は、本別JCT～網走を対象とした場合、( )書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。